

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 復興支援－05

学校名・団体名	宮古市立重茂小学校
HPアドレス	なし
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	未来の重茂を担う子どもを育てる「ふるさと学習」
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>重茂小学校のある岩手県宮古市の重茂半島は、東日本大震災津波によって多くの家屋や人命、漁業施設、漁船を失う等、甚大な被害を受けた。</p> <p>現在、重茂半島は、流失した漁業施設の再建が進み、地域住民の努力と多くの支援により漁業の状況も元に戻りつつある。しかし、今後も復興のため活動は何年も続けなければならない状況であり、そのような中で、復興を支えるのは今の子どもたちである。</p> <p>そこで、未来を支える子どもたちに調査・体験活動を通じて重茂の自然とそこに生きる人々の営みのすばらしさ、自然を生かした産業のよさを理解させるとともに、自分たちの果たすべき役割と責任を考える機会にしたい。</p>	

1 鮭の稚魚放流 (2~4年生)

(1) 時期 4月20日(月)

(2) 内容

重茂漁協の協力を受け、鮭孵化場の職員の説明を聞きながら、重茂川に鮭の稚魚を放流した。なお、放流した稚魚の一部は、第4学年が重茂漁協から譲り受けた卵を昨年度から飼育していたものである。

(3) 成果

重要な水産資源である鮭を学ぶ機会は、2~3年生にとって重茂の産業や自然、文化にふれる「ふるさと学習」のオリエンテーションとなった。また、第4学年にとっては、第3学年で学んだ採卵から放流までの「鮭を育てる仕事」のまとめとなった。

2 鮭の採卵見学と飼育 (3年生)

(1) 時期 11月20日(金):採卵見学 11月25日(水) 飼育開始

(2) 内容

重茂漁協の鮭孵化場で職員の説明を聞き、メス鮭の腹から取り出した卵にオス鮭の精子をかける採卵の様子を見学した。その後、受精させた卵を譲り受け、現在4月の放流を目指して学校で飼育している。

(3) 成果

鮭の採卵と孵化、放流が4年後の鮭の収穫に大きな役割を果たしていることや鮭の習性や生態系を学ぶことができた。また、鮭の飼育を通して命のつながりや大切さについて考える機会となった。

3 定置網見学 (5・6年生) …天候不良のため実施せず。(来年度5・6先生で実施)

4 重茂の水産業調べ (5年生)

(1) 時期 6月~11月

(2) 内容

5年生の社会科における水産業の学習と関連させながら重茂で収穫する代表的な水産物の調査研究をする。

(3) 成果

重茂の代表的な水産物(アワビ、ウニ、ワカメ、コンブ、サケ)の生態と収穫時期、収穫量、収穫方法をコマーシャル映像にまとめることにより、重茂のよさを再確認することができた。

5 新巻鮭づくり (6年生)

(1) 時期 12月3日(木) 12月10日(木)

(2) 内容

重茂小学校PTAと重茂漁協の協力を得て、6年生と保護者で鮭の解体・塩漬け・洗い・天日干しを行い、1人3本の新巻鮭づくりを行った。なお、つくった3本の新巻鮭のうち1本は切り身にして、児童が地域に販売し、その収益金をネパール地震へユニセフを通して寄付をした。

(3) 成果

「ふるさと学習」で6年間かかわってきた鮭を伝統的な保存食である新巻にすることで、重茂の海の恵みと食文化の伝統を学ぶことができた。また、販売をすることによって、漁業を生業として海とかかわって生きている重茂の地域性を実感することができた。

さらに、ネパールへ義援金を贈ったことにより、様々な被災地に目を向けて自分たちも助けられるだけでなく被災地に役立とうとする使命感をもつことができた。

(参考資料:【別紙】感謝状及び新聞記事の写し)

6 メカブ芯抜き作業

(1) 時期 3月28日(月) 予定

(2) 内容

重茂小学校PTAと重茂漁協の協力を得て、各家庭から持ち寄ったメカブの芯抜き作業を全校児童で行う。

(3) 成果(期待される成果)

家庭で手伝っている児童もいるが、全校で共同作業をすることで、海と生きる重茂の一員としての自覚を深めることができるものとする。